

川 根 本 町

2026年2月号

図 書 室 だ よ り

2 月

- ・文化会館図書室(小長井)
 - ・山村開発センター図書室(上長尾)
 - ・移動図書館車やまびこ号: 川根本町内6コース
- TEL: 0547-59-3106 (文化会館)
TEL: 0547-56-2231 (山村開発センター)

☆ 開室時間: 午前9時～午後5時

☆ 休室日: 月曜日・第3日曜日(15日)

祝日の翌日(12日・24日)

☆ やまびこ号巡回6コース

かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。



新着図書



「川根本町インターネット図書室」では
新刊の詳しい情報や 蔵書の検索が可能です。



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ

「真の幸福」とは？
ショーペンハウアーの
哲学



文

カンヨンス 著
ダイヤモンド社

実用ネタもたっぷり
お弁当コミックエッセイ



文

たかぎなおこ 著
文藝春秋

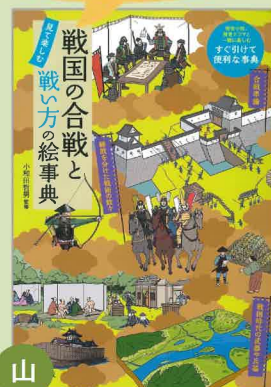
「習慣化」こそ
人生成功の鍵



山

堀田秀吾 著
SBクリエイティブ

合戦は変容し続ける！
戦国の戦を絵で紹介



山

小和田哲男 監修
成美堂出版

※所蔵状況 文 文化会館図書室

山 山村開発センター図書室



みんな大好き！

お菓子特集

ページをめくれば甘い香り
本の中のスイーツタイム



今月の特集

1・2月

山村開発センターにて開催



Sweets

◎ 新着図書

「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
●『しっぽのカルテ』 村山由佳 著 集英社 信州の美しい木立のなかに佇む「エルザ動物クリニック」。獣医師としては凄腕だけれど、ぶっきらぼうで抜けている院長の北川梓、頼れるベテラン看護師の柳沢雅美と萩原絵里香、受付と事務を担う真田深雪。4人のスタッフが力を合わせ、日々運び込まれるペットや野生動物の治療を懸命に続けている…。	●『暁星』 湊かなえ 著 双葉社 文部科学大臣で大御所作家でもある清水義之が式典の最中、男に刺されて死亡する事件がおきた。逮捕された男・永瀬暁は週刊誌に手記を発表しはじめる。そこには、清水が深く関わっているとされる新興宗教に対する恨みが綴られていた…。
●『タクジョ! [3]』 小野寺史宜 著 実業之日本社 終電を逃したアラフォー女性、危篤の母親の病院へ急ぐ息子、崖っぷちのプロ野球選手……タクシー運転手は、目的地までお客さんの人生にそっと寄り添う。「人と関わる仕事」への誇りを抱き、誠実に仕事に臨む高間夏子と東央タクシーの同僚たちを描く大人気シリーズ。	●『陽炎の旅人』 天童荒太 著 毎日新聞出版 伊予松山で活躍したヒスイと救吉、そして藩士の辰之進らの姿は、不穏な空気の漂う江戸にあった。それぞれの抱える事情で上野戦争に向かった3人はより大きな戦いに巻き込まれていく……。幕末の伊予松山を描いた歴史巨編!『青嵐の旅人』に続く、感動の第2弾。
●『90歳、男のひとり暮らし』 阿刀田高 著 新潮社 脳と体の衰えを知恵とユーモアで迎え撃つ。モットーは「まあまあ」でいいじゃないか。迫りくる老いを受け止めながら日々を軽やかに過ごすコツを伝授し、人生の豊かさを再認識させてくれる滋味絶佳の老境エッセイ。	●『豊臣家の包丁人』 木下昌輝 著 文藝春秋 屑として捨てられていた雉の内臓を使った汁。決死の戦の前に、即席のかまどで焼いた下魚のかまぼこ。秀吉と秀長の故郷の味、ドジョウの味噌鍋……秀吉・秀長の豊臣兄弟に仕えた包丁人が作る、人と人との心をつなぐ料理とは? 戦国時代の「食」に光を当てた、前代未聞の天下取り物語!
●『もぐらけんせつ あなぐましまいのドーナツトンネル』 長崎真悟 作 童心社 ドリルジャンボなど、たくさん重機を使って安全第一でお仕事をする「もぐらけんせつ」がトンネル工事に着手することに…。トンネルができていく過程が楽しめる絵本。	●『冬にやってきた春と夏と秋』 ジョナサン・フリードランド 文 エミリー・サットン 絵 徳間書店 冬の王さまは、誕生日にながく会っていないきょうだいたちをよぶことにしました。春の女王、夏の王、秋の女王です。自然のリズムを尊重することを伝える絵本。

おすすめ図書

『山でヒグマに遭わない・死なない観察力』

稗田一俊 著 長谷智恵子 著 つり人社

熊を見かけたら、全て駆除は逆効果。賢い母熊が子熊に人間との距離感を教える。



山村開発センター
図書室所蔵

野生動物を被写体とするカメラマンが、ヒグマを撮影する経験から得た知見や、日常の中にクマがいる地域で暮らす人々やマタギなどから聞いた話を元に、ヒグマの生態などについて書いた本です。

著者は実際にくまに襲われそうになったこともあり、その時は恐怖で体が凍り付き、何もできなかったそう…。その実体験もふまえ、「くまに襲われないようにする最善の方法は熊と異常接近しないことに尽きる。ばったりと出会わないようにするしかない。」と語る著者。フン・食痕・足跡・木の幹などについた爪痕など、熊との距離を保つ指標になる痕跡を全編フルカラーの写真により多数紹介しています。

また、本書の中では、その生態も紹介しており、個人的にもっとも興味深かったのは、ひぐまの驚くべき「賢さ」です。川根本町にいる熊は違う種ではありますが、熊としての共通点も多いことだと思います。熊も成長する過程で沢山の事を学び、人間とのトラブルを避ける間合いを学ぶそうです。熊への強い恐怖心が、本書により和らぎました。 図書室スタッフS